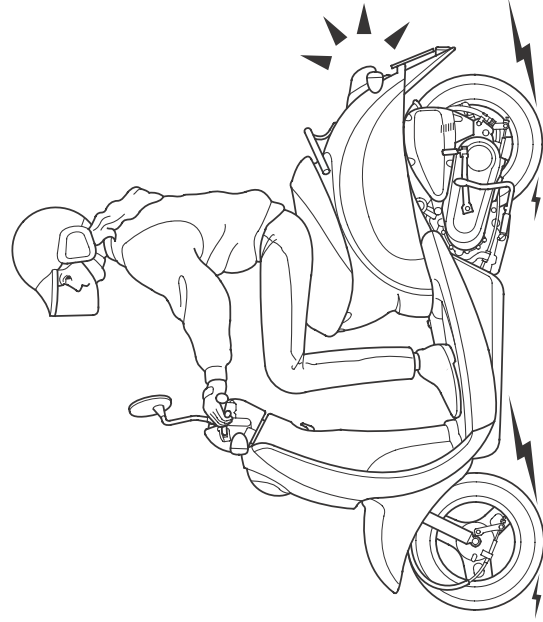


不必要な急ブレーキは避けましょう。急激なブレーキ操作は、タイヤをロックさせ車体の安定性を損なうおそれがあります。

- 雨天走行や路面が濡れている場合、タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。スピードを落とすとして、余裕をもったブレーキ操作をしてください。



雨の日は、とくに慎重に走りましょう。

- 雨の日や路面がぬれているところでは、晴天時よりブレーキ停止距離が長くなります。速度を落として走り、早めにブレーキをかけるなど余裕をもって操作しましょう。
- 下り坂では、スロットルグリップを戻して速度に応じてブレーキをかけながらゆっくり走りましょう。
- 連続的なブレーキ操作は、ブレーキ部の温度上昇の原因となり、ブレーキの効きが悪くなるおそれがありますので避けてください。
- 水たまりを走行した後や雨天走行時には、ブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。水たまりを走行した後などは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。
- 雪道や凍った道はすべりやすいので十分に気をつけて、ゆっくり走りましょう。

## 止まりかた

①止まる地点が近づいたら、

- 早めに方向指示器スイッチで合図を出し、後方や側方の車に注意し、徐々に左に寄りましょう。
  - スロットルグリップを戻して、早めに左側のブレーキレバーを引きブレーキをかけましょう。
- 制動灯(ストップランプ)が点灯し、後車への合図になります。

左ブレーキ

右ブレーキ

